

れが爲めに全力を盡して戦ふべき事である。自己の日常の利益の爲めに最も勇敢に、有効に戦つて呉れる者のみを彼等は信頼する。そこに端緒がある。

而して黨の闘争といへば從來兎角全市民的な、或はもう少しよくて全市の労働者に關係した問題が取り上げられ勝ちであつたが、之れは大衆の組織化といふ観点からだけ云つても、決して有効な、能率ある、方法ではない。我々は或る一工場の特種な条件をとらへ、その一工場の労働者の爲めに全力を盡して闘争すべきである。その事はその一工場の労働者の信頼を勝ち得るのみでなく、全市の労働者の信頼を得ることもあるのだ。一工場の組織——それだけでも實にスバラしい功績である。

勿論一工場の闘争が全市労働者の闘争になるように導かれねばならぬが、全労働者の闘争のみが政黨的闘争だと考へることは誤りである。

二、かゝる闘争の過程に於てその工場を、なるべく労働組合として組織し黨の影響下におく。然し萬般の事情から黨に組織することのみが可能なる場合は直接黨に組織することも決して躊躇せらるべきではない。

然し行く／＼は組合に組織せられたものを黨に組織し、黨に組織せられたものを組合に再組織すべきである。(農村につても同じ)

## 五 労働組合農民組合等々の擴大強化

(第四節黨の組織方針——特に「班」の項。(四)未組織大衆の組織化——参照)

我國現在の客觀的状態に當面して、労働組合、農民組合等の擴大強化は特に重大なる我々の任務でなければならぬ。特に黨の活動と組織を激しい弾壓に對して守り得るもの、黨の階級性を守り得るものは實に黨が深く深く工場農村に根を張る事以外にはあり得ないのである。

然かも工場に根を張る労働組合、農村に根を張る農民組合といふ組織の上に根を下ろしてこそ初めて黨は工場農村に根を張つたといひ得るのである。即ち黨が充分に工場農村に根を下ろしたといふには、黨の尖端たる班が、その班周囲の未組織状態にある労働者農民に影響を與へ得る状態では未だ不十分であつて、班が自分自らその中に入組んである労働組合、農民組合といふ組織を通じて労働組合、農民組合に組織せられた労働者農民を指導し得る状態に至らなければならぬ。

一、黨員は各自その生活条件と能力に應じて、労働組合、農民組合、借家人同盟、消費組合等々に入組し、もしくは新たにそれらを組織して、黨員は一人残らず、その周圍に、組

織を通じて影響を與へ得る各種の闘争團體に基礎を持つてゐるといふ状態に過ぎなければならぬ。

それが爲めには黨員を獲得する毎にその一人／＼に對して或は何組合に入組すべきこと、或は何組合を組織すべき事を黨の各機關が指示することを實際上必要とする。

四、それ等の組合に入組した黨員は、そこで最も勇敢な組合員として組合の各種の活動に積極的に率先して行動しなくてはならぬ。

而してその黨員は勿論黨の各種機關と常に密接する連絡を保ち、黨の意見を組合の意見とすることに努力しなくてはならぬ。

此の際注意すべきことは如何に黨の意見が正しいとしてもそれを主張することによつて、組合を分裂せしむるやうな方針に出ることは、原則上斷じて過ちである。黨員は不斷の活動によつて、黨の意見を組合大衆に了解せしめ、黨の意見と組合の意見とが完全に合致した状態にするように努力しなくてはならぬ。

これ等の活動が組合強化の第一歩である。

五、だが現在、組合の擴大強化といへば、組合の數的擴大が痛切な問題である。即ち黨員は特に新たな組合員を獲得し新たな工場を組織することを不斷に心懸けねばならぬ。

ある他の工場農村に、組合加入者を得たる場合は勿論、黨

加入者のあつた場合でも、それらの新たな同志に課せられる任務は、先づ第一に組合の組織擴大を計ることではなくてはならぬ。

六、現在我國に於ては戰局的労働組合の全國的組織が確立せられてゐない。その確立、強化は労働組合の當面の重大緊急な問題であると同時に、又わが黨の重大な任務である我々は戰局的労働組合の全國的組織確立強化のために極力努力しなければならない。

## 六、戦線の統一——共同闘争——

(七)非階級的幹部の無力化及び(八)アナ的傾向の克服の項——参照。

戦線統一の根本的原則は下からの共同闘争にある。

一、わが黨の労働者農民無産市民と雖も他黨もしくは他黨傘下の組合の労働者農民無産市民と異つた不平等要求をもつてゐるわけではない。只異なる所は他の陣營の幹部はその大衆の不平等要求のために眞實に闘ふ熱意と、有効に戦ふ戦術と組織を持たないに反し、我々はそれを眞一文字に闘ふ決意と有効なる戦術と組織を持つ點に在る。

故に共同闘争は可能である。